

人材システム改革構想・概要

- 提案構想名 「メデイカル・トップトラック制度の確立」
- 総括責任者名 「難治疾患研究所 野田政樹」
- 提案機関名 「国立大学法人 東京医科歯科大学」

機関の現状

(1) 研究面：難治疾患研究所は、高齢化の急速に進行するわが国における、難治疾患研究と基礎生命科学研究の先端的研究を遂行する21分野からなる欧米にも類のない「難治疾患の克服を目指した研究所」である。研究成果は英文一流誌に多数発表され（Nature 姉妹誌、Science 誌、Cell 誌等）、多くの大型競争的研究資金を獲得している。**(2) 人材システム**：平成14年度より「新任教官の採用は完全公募制」とし、平成12年度に「全教授、全新任教官に対して再任可能な任期制」を導入した。内部・外部審査委員による透明性の高い再任評価により優秀な若手の育成、人材の流動化（3年間で1/3の教員が入れ替る）が達成され、さらに若手研究者が（2/3の教授が40歳台）結集している。**(3) 若手研究育成の自主的取り組み**：平成15年度に「連携大学院」を開設し、「大学院教育研究支援実験施設」を設置した。平成17年度に「独立教員制度」を自主的に導入し、「独立教員支援のための共同実験室」を設置しており、若手PI制度確立により今回の「メデイカル・トップトラック（MTT）制度」の確立のプラットフォームの基盤ができています。**(4) 外部評価**：平成15年度より有識者からなる「外部諮問委員会」を設け、業績やシステムに関して毎年評価とアドバイスを受けて研究所運営に反映している。

人材システム改革構想

既に自主的に取り組んでいる独立教員制・6施設からなる高度研究支援コアを拡充し、既存の外部諮問委員会・国際シンポジウムを基盤として、その上に「メデイカル・トップトラック（MTT）制度」を確立する。

(1) トップ・トラック（MTT）難治疾患研究テニユアシステム：医科学研究領域の若手を育成するため外部・内部審査委員からなる評価委員会を設立し、書類審査とプレゼンテーション（英語）による厳正な2段階審査により多様かつ優秀な若手研究者を採用ならびに継続的に独立を支援する。即ち、世界のトップの研究者として育成するトラックとして確立する業績評価とテニユア審査に加え、「国際アドバイザリーパネル」を設立して一流海外研究者による直接的な指導により独立研究支援を行う。この評価もふまえて、“MTT推進委員会”で統合的育成を行う。

(2) ジュニア MTT フェロー（若手研究支援プラットフォーム）：若手研究者（ジュニア MTT フェロー）を既存の大学院教育研究実験施設・共同実験室を拡充し、コア実験を経費と技術面からサポートする。また当研究所が既に研究協力締結を結ぶハーバード大学などの国際研究機関を含めて広く流動的な難治疾患研究ネットワークの中での育成体制を構築する。これらの共同利用のMTT研究支援プラットフォームの構築により、ジュニア MTT フェローが国際的視野を持つトップレベルで自立的研究者としてスタートする基盤を設定する。

(3) シニア MTT フェロー：毎年の審査によりジュニア MTT フェローの中から、シニア MTT フェローを選抜し、全ての面で独立し国際的にも一流の若手研究者を育成するため、予算獲得のノウハウを「グラントライティングコース」で習得させ、運営委員会への参加（アドミニストレーション参加）の機会を与え、大学院の学生教育を担当させて（ヤングメンターシステム）独立ならびにテニユアへの基盤形成を行う。これにより、難治疾患研究に特化したテニユア制度およびメデイカル・トップトラック制度の導入を実現する。

人材システム改革における達成目標（ミッションステートメント）

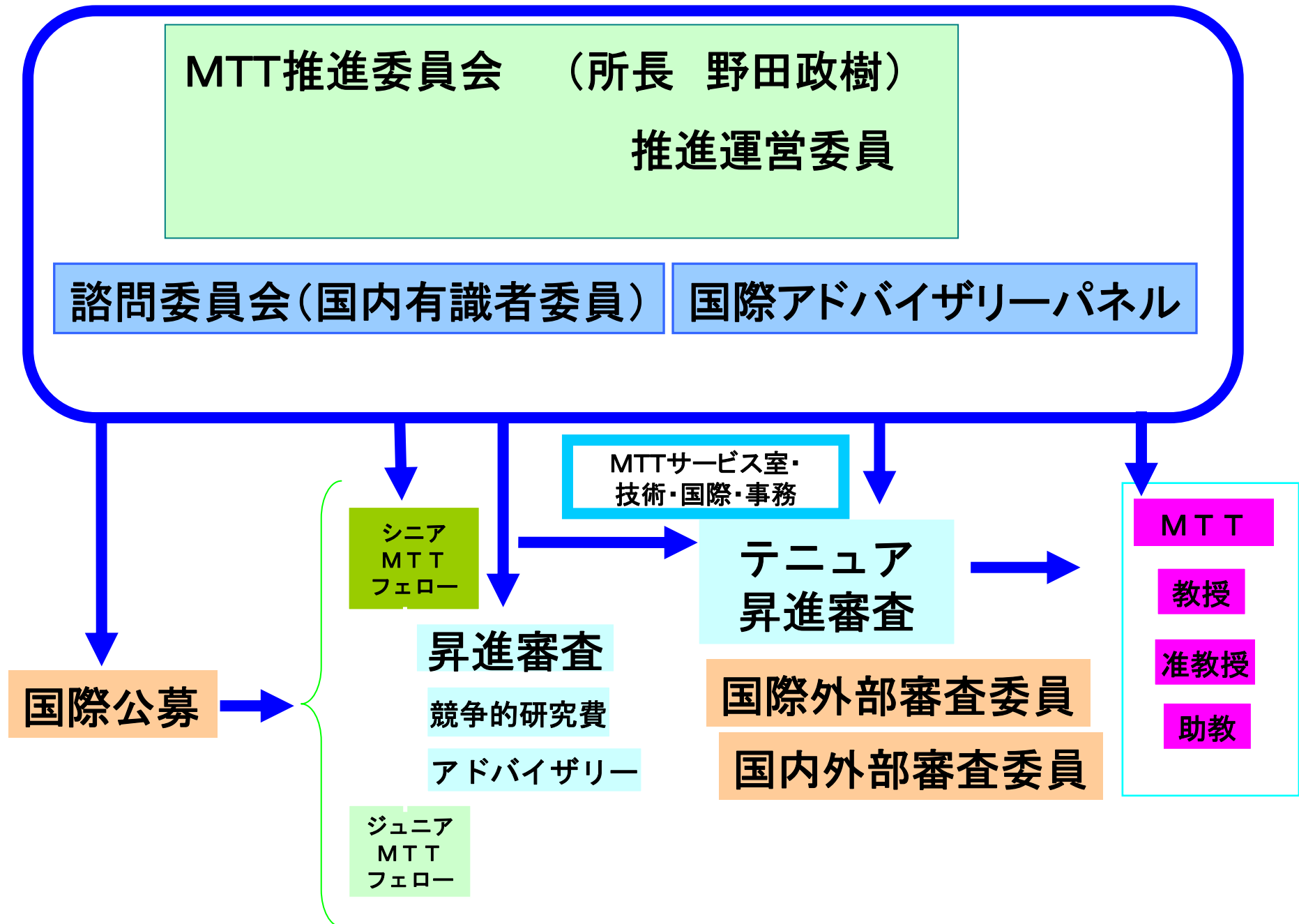
中間時（3-4年目）における具体的な達成目標：

ジュニア MTT フェローとして初年度15名程度の若手研究者を選抜し、2、3年目にも若干名を追加公募し流動的・競争的人的構成とする。若手研究支援プラットフォームと難治疾患リサーチリソースセンターを定着させ、若手研究者（ジュニア MTT フェロー・シニア MTT フェロー）はこれらをフルに活用することにより、国際的な研究成果（論文、特許）の発信ならびに、予算獲得の達成を目指す。毎年国際シンポジウムを開催するとともに、3-4年次には、国内外の一流サイエンティストならびに MTT 推進委員会による厳正な評価を受け、テニユアフェローを選抜する。

終了時（5年目）における具体的な達成目標：

ジュニアならびにシニア MTT フェローとしてのトレーニングにより、グラントライティングコース、アドミニストレーション参加、ヤングメンター制などを通して、独立した国際的に通用する若手研究者を育成する。これらのフェローは中規模の競争的資金獲得し、内外の研究施設においてテニユアポジションに付くことを目指し、テニユア制及びメデイカル・トップトラック制度の確立を達成する。

メディカル・トップトラック(MTT)制度の実施体制



メディカル・トップトラック(MTT)制度の実施内容

MTT推進委員会 (所長 野田政樹)

